




論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 37 号	氏名	高木 理博
学位審査委員	主 査 田崎 修		
	副 査 橋爪 真弘		
	副 査 泉川 公一		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価          本研究は、未だ明らかにされていない我が国の市中肺炎の発生率、および肺炎の原因細菌に加えてウイルスの関与を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価          高齢化率が全国平均に近い高知市の市中病院において、2 年間の前向き調査により市中肺炎症例を抽出し、病院の外来患者総数における市中肺炎の割合を用いて市全体の市中肺炎の年齢別発生率を推定するという手法を用いた。また、原因微生物に関しては、通常的一般細菌培養と尿中抗原検査に加え、6 種類の呼吸器病原細菌および 16 種類の呼吸器病原ウイルスの検出を in-house マルチプレックス PCR 法、および市販キットを用いて行っており、これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価          肺炎における検出菌では、肺炎球菌 (28.2%)、インフルエンザ桿菌 (18.3%)、モラキセラ菌 (6.1%) の順に多く、呼吸器病原ウイルスは 27.5% で検出され、その内ライノウイルス/エンテロウイルスが最も多数を占めた。また、高知市における成人市中肺炎の発生率は 1000 人・年あたり 9.6 であると推定され、年齢別では 15~64 歳、65~74 歳、75 歳以上のグループでは、1000 人・年あたり、それぞれ 3.4、10.7、42.9 と推定された。上記の結果は、今後の高齢化社会における肺炎対策に関する研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は感染症疫学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと